

令和元年度 児童発達支援「戸次なごみ園」自己評価表の公表

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点、課題や改善すべき点など
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	100%			園庭や個室などひとりひとりの特性に合わせて、分散できるスペースなどがあり、適切な環境設定には心掛けている。
	2	職員の配置数は適切であるか	100%			基準より多くの職員を配置しており、一人一人丁寧に関わられる保育が行われている。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	100%			車椅子でも対応できるトイレも完備している。園便りやお知らせ等、掲示スペースを設けている。また、利用児には、絵カード等で見通しが持てるような掲示をしている。時間の区切りもタイマーを使うなどの配慮をしている。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	100%			常におもちゃやドアノブなどのアルコール消毒やハイター拭きを行っている。危険な個所には、クッションガードを取り付け、けがの防止に努めている。個室も利用児の特性に応じて活用できている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	100%			職員会議では、利用児ひとりひとりの特性に応じて、支援の振り返りをしながら、PDCAサイクルを考えるようにしている。全職員が共通理解できるようにしている。朝礼でも、気づいた点や改善点を検討している。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	100%			全職員で評価内容の分析を行い、共通理解のもと迅速に改善を行っている。保護者への説明も丁寧に詳しく行っている。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	100%			昨年度から取り組み、事業所ホームページに自己評価の結果は掲載している。また、事業所にも掲示して公開している。それによって、保護者からの意見等を真摯に受け止め、対応していきたいと考えている。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか	83%	17%		行政からの指導や研修等を受け、業務改善等に取り組み、より質の高い支援を提供できるようにしている。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100%			法人内研修や外部研修、事業所内研修等に積極的に参加するようにしている。また、受けた研修の内容については、会議等で報告するようにしている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか	100%			保護者にニーズや困っている事を聞き取りを行い、それを基に全職員で内容を話し合い、支援計画を作成している。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	100%			利用開始時にアセスメントシートに記入してもらい活用している。また、必要に応じて、臨床心理士に標準化されたアセスメントツールでの把握を依頼することがある。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	100%			利用児ひとりひとりの特性や能力、家庭環境に合わせて、個別支援計画を作成している。ガイドラインも職員が常に確認できるようにファイルを設置し、会議等で確認するようにしている。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	100%			個別支援計画を全職員で確認しながら支援している。また、振り返りを大切にしながら取り組んでいる。

	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	100%			毎月の職員会議で、話し合い立案している。昨年行ったものも振り返りながら、新たな活動も検討している。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100%			今年度も季節に応じた活動やプログラムを提供している。ただし、利用児の特性に応じて、工夫するようにしている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成しているか	100%			個々の発達段階に応じて、日々のケース記録を見返し、無理のない範囲を考慮しながら、その子に合った支援計画を立てている。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか	100%			朝のミーティングで、その日の活動内容や支援で注意すること、配慮することなどの確認をしている。また、役割分担も細かく打ち合わせしている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか	66%	34%		その日のうちに気づいた点を振り返り、話し合うことをしている。毎日のミーティング時も、支援の振り返りを行い、利用児の様子の確認や対応策などを検討し、共通理解するようにしている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか	100%			その日の利用児の様子や支援したことの詳細などを記録し、後で見返せるようにしている。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断しているか	100%			半年ごとのモニタリング時には、記録を見直し、課題点について話し合ったり改善したりしている。
関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	100%			療育現場で、関わっている職員が中心に出席している。主に、児童発達管理責任者や主任保育士が参加している。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っているか	100%			保育所や幼稚園と保育所等訪問支援事業を通して連携している。また、必要な保護者には、臨床心理士と話ができる機会を設定している。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っているか	80%	20%		地域の医療機関と協力契約書を交わしており、緊急時の対応の体制はとっている。現在、医療的ケアが必要な利用児はいない。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えているか	80%	20%		利用アセスメントシートに医療機関等の情報を記入してもらい、いつでも対応できるような体制をとっている。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	100%			就園前には、個別支援会議を行い、利用児の能力や特性に応じた支援内容を伝えるようにしている。また、その園に訪問し、情報交換し、支援の統一を図っている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか	100%			送迎時や保育所等訪問等を通して、クラス担任や教育コーディネーターと情報共有をしている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか	100%			法人内の児童通所事業所と連携して支援の向上に取り組んでいる。また、他事業所とも情報交換しながら、助言や研修を受けている。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか	66%	17%	17%	法人祭りで、保育園や幼稚園と併用利用をしている利用児があり、交流する機会があった。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか	16%	67%	17%	案内のある協議会等には、出来る限り参加すると共に、法人他事業所とも連携をとっている。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	100%			送迎時や個別面談等を通して、利用児の状況について共通理解を持つようにしている。

	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っているか	100%			必要に応じて、臨床心理士との面談機会を設け、保護者支援に努めている。また、保護者会を通じて、保護者への支援や養育力を向上するようにしている。	
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか	100%			利用契約時に、書面にて詳しく説明し、同意を得るように努めている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか	100%			支援内容を丁寧に説明し、家庭でも一度支援計画書を確認して頂き、同意を得るように取り組んでいる。ガイドラインを職員に周知し、確認しながら取り組んでいる。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っているか	100%			児童発達管理責任者や主任保育士を中心に、保護者の相談に応じ、少しでも保護者の悩みを軽減できるよう取り組んでいる。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援しているか	100%			今年度9月に保護者会を開催し、保護者の連携を図った。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか	100%			苦情解決の受付等に関しての説明を利用契約時に行い、体制は整えている。また、療育の現場に見学に来てもらうなどして、なごみ園での様子を見てもらうようにし、ニーズに沿えるように対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	100%			毎月、園便りを発行し、なごみ園での過ごし方や活動内容の様子を伝えるようにしている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意しているか	100%			個人情報の取り扱いについては、利用契約時に同意書を交わし、その都度保護者に確認しながら取り組むようにしている。また重要書類や記録など個人情報に関するものは、施錠のできる棚に収納している。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	100%			利用児の特性や必要に応じて、絵カードやスケジュール表等を用いて、視覚支援を活用している。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか	83%		17%	法人祭りを地域の方にも声をかけて、交流できることを行っている。もっと交流できる内容の検討が、今後の課題である。	
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか	100%			各マニュアルについては、保護者会で周知している。また、利用開始時にも説明して、理解してもらっている。今後も保護者に対して、丁寧に説明をしていきたい。
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか	83%		17%	避難訓練を年2回行っているが、利用児の特性に応じての形式にしている。保護者への周知不足もまだまだあるため、今後の課題である。また、備蓄品を準備している。	
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか	83%		17%	利用開始の際、アセスメントや面談で確認している。	
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	49%		34%	17%	食物アレルギーに関しては、保護者と情報共有し、主治医の指示に応じて対応するようにしている。
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	49%		34%	17%	業務日誌にヒヤリハット事例を記入し、職員間で情報確認・共有をするようにしている。確認印もつけつようにしている。
46		虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	100%				虐待に関するセルチェックシートを定期的に職員に記入してもらい、日常の支援の振り返りに取り組んでいる。また、法人内研修で毎年虐待防止研修会も開催している。
47		どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか	100%				安全面での配慮について、必要に応じて個別支援計画に取り入れ、対応について説明し、同意を得るようにしている。